

有限会社 木樋桃源ファーム

き とい と う げ ん

■ 作付の見直し、作業分担による経営改善と労働時間縮減



〈法人の概要〉

所在地：〒092-0352 津別町字木樋 62 番地

代表者：代表取締役 樫(べんど)耕三

構成員：8 名(構成農家 4 戸)

役員：4 名 常時雇用者：1 名

設立：平成 11 年 4 月 資本金：300 万円

事業内容：畑作

小麦 70ha、てん菜 58ha、馬鈴しょ(加工・生食用)
18ha、たまねぎ 15ha、スイートコン10ha、豆類 10ha
(H21 年)

経営面積：183ha

売上高：1 億 4,300 万円(H21 年) 交付金も含む

電話：0152-77-2317 FAX：0152-77-2317

〈法人のあゆみ〉

- 平成 11 年 木樋桃源ファームを設立(津別町では初の複数戸法人)
農家 4 戸、経営面積 159ha からスタート
- 12 年 たまねぎを導入(かぼちゃ、キャベツから作付転換)
- 17 年 構成員の娘婿(1 名)が入社
- 18 年 馬鈴しょにソイルコンディショニング栽培システムを導入
- 19 年 経営面積 20ha 拡大
優良担い手表彰において農林水産省経営局長賞(法人・土地利用型部門)受賞
- 22 年 現在、経営面積 183ha に拡大

〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・木樋地区では昭和 45 年から農業構造改善事業による機械導入に際し、機械利用組合を組織し共同作業を実施していたほか、離農跡地を共同畑として耕作していた。
- ・しかし、各戸の経営面積が 14~24ha と個人差があるため、共同畑を配分し個人差を埋めていたが、共同畑より個人の畑での作業を優先しがちであることや、共同作業の公平性を優先するため、各人の作付面積の半分ずつを順番に収穫していたため、農作業が非効率であった。
- ・平成 4~8 年に不作が続いたこともあり、現状の機械利用組合の共同作業体制では個人収入や規模拡大、新たな取組ができない状況になっていた。また、高齢化や担い手不足などの共通の課題でもあった。
- ・そうした状況のもと役場の声かけで若手のリーダー農家を中心に地域学習会を開催した。その際にアドバイザーとして、北見工大の大野教授(当時)を招へい。地域農業の問題発見や課題設定、計画づくりなどのアドバイスを受けながら数年かけて研修を重ねた。その結果、法人化という結論となった。平成 11 年 4 月に木樋地区の農家 5 戸のうち 4 戸による津別町では初の複数戸法人を設立。
- ・経営の効率化、作業分担によるコスト低減と労働時間の軽減を目指して経営をスタートさせた。その後、収益を上げるために平成 12 年作付作物を見直し、たまねぎなど高収益作物の導入や馬鈴しょの作付可能面積の拡大・輪作体系の改善を図るため平成 18 年に馬鈴しょにソイルコンディショニング技術を導入。
- ・平成 20 年には、離農地 20ha を集積し規模を拡大。平成 21 年には、売上高 1 億 4,300 万円を達成。現在、183ha の経営地を作物ごとに担当を分担することにより、技術レベル・作業効率を向上させている。また、町内の法人化の牽引的役割や農地の遊休化防止に貢献している。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・数年間は、赤字経営であったが、手間がかかっていたかぼちゃ、にんじんの作付をやめ、高収益作物のたまねぎを新規作付けしたことなどにより経営が改善した。
- ・農地に石礫が多く、馬鈴しょ作付けが制限されていたためソイルコンディショニング技術を導入したことにより、作付け可能面積が増え品質も向上し、さらに輪作体系が改善した。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・個人ではできなかった輪作体系を取り入れることにより、地力・品質がアップした。
- ・技術の高い人に技術レベルが向上し、それに伴い収量が向上した。
- ・担当作物を決めることによる作業効率が向上したことから、労働時間が大幅に縮減（H9:1,900h → H19:1,620h）。その分、生活にゆとりができて趣味を持ち楽しむ時間が生まれた。
- ・規模拡大と経営安定により後継者が戻ってきた。平成17年構成員の娘婿1名が入社。平成23年に構成員の子弟1名がUターン入社（予定）

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・農地は、構成員から使用貸借とし、無償で借りることにより地力の評価などもめる原因を排除している。
- ・報酬・給与は、全員同一額とし、各戸が個人経営時代の負債を返済しながら生活していける金額を設定。そのために収益を上げるために作付の見直しや新技術を導入。
- ・作物ごとに担当者を決め、各自の役割や作業の流れを十分理解させた上で作業すること。
- ・休みなど自由に取りるようにさせ、お互いに気をつかわないようにして、不公平感や強制感が生じないようにする。

〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・共同で作業することの多い女性たちが上手くやっっていけるかが鍵。
- ・趣味を持つことにより、仕事をより効率的にやる動機ができる。
- ・早めの経営移譲には、後継者と親世代との意思疎通が十分にできたり、わからないことも周りに聞きやすいなどの大きなメリットがある。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・生産物は全量農協を通じ出荷（加工用の馬鈴しょ、スイートコーンは加工業者用。生食用馬鈴しょは、量販店用。）。
- ・麦・たまねぎ栽培には、たい肥を施用し、農薬を低減した栽培や特別栽培にも一部取り組んでいる。
- ・馬鈴しょのソイルコンディショニング技術を導入し、作付可能面積の拡大・輪作体系の改善を図る。
- ・30才代1名、40才代1名、50才代2名の4戸で構成し、バランスがよい。
- ・現在、個別に抱えていた個人負債は、全て償還を終了した。
- ・退職金を積み立てしている。

〈経営目標と将来の展望〉

- ・規模拡大と過作作物の解消、たまねぎなどの高収益作物の導入。
- ・新しい発想での経営展開を目指すため、外部から人材を取り入れること。
- ・内部留保により運転資金確保して経営をより安定。
- ・65歳定年制の導入を図りたい。

〈視察等の受入〉

は種・収穫時期を除いて要相談。

連絡先:0152-77-2317（担当:代表取締役 樫(べんど)耕三）